

部品
用品
整備

最新動向

TECHNO RADAR

テクノレーダー

43

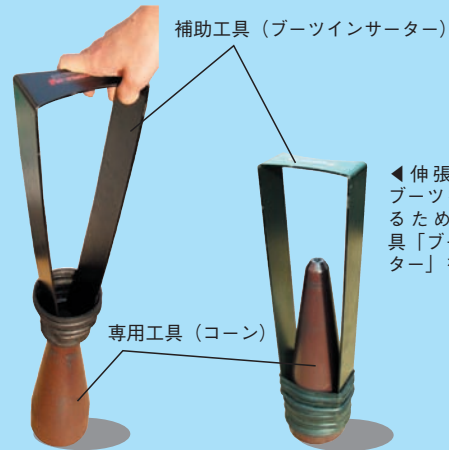
ALL IN 2 BOOTS

アウトジョイントの取り外し不要!
2種類のブーツで幅広い車種に対応

■オールイン2ブーツ



OUTER側の2段目もしくは3段目の蛇腹部までブーツバンドが装着できる幅をそれぞれに設けている。ドライブシャフト・アウトジョイントの外径97mmまで使用できる。



補助工具 (ブーツインサーター)

専用工具 (コーン)

◀伸張率500%のブーツを傷めず広げるために、補助工具「ブーツインサーター」を使用する。

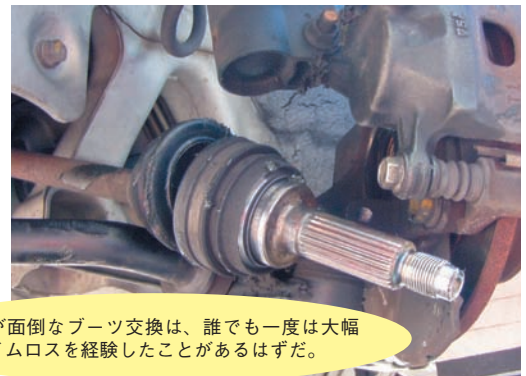
面倒なブーツ交換

面倒なドライブシャフトブーツ交換を「どうか手間をかけずに作業したい」と、現場スタッフなら誰もが一度は思うだろう。

これまで、作業効率アップをウリにした補修用ブーツとして「分割タイプ」が出回っていた。これは、古いブーツを取外せばシャフトとジョイントを切り離さないで装着できるため、大幅な作業時間の短縮を図れるのが特徴だ。

ただ、ブーツの接合面に接着剤を塗布する性質上、走行中に接合面が開いてグリスが飛散するケースがしばしば見受けられた。

そのため、取扱う整備工場としても「再入庫」と「無償修理」のリスク要因を常に抱えることから、業界全体で積極的に利用するムードはあまり



作業が面倒なブーツ交換は、誰でも一度は大幅なタイムロスを経験したことがあるはずだ。

広がらなかった。

伸縮性と耐久性に優れた 日本製ゴムを使用!

シャフトとジョイントを切り離さずにブーツ交換を行うとしたら、シャフト側に配置されるブーツの小径部がジョイントの外径を上回るまで広げるほかに手段はない。

それが可能になれば作業時間を大幅に短縮できるうえ、製品の構造から考えて走行中に破れる心配もない。

本項で紹介する「オールイン2ブーツ」は、そ

1 グリースの塗布



専用工具にオイルまたはグリスをたっぷり塗り、ブーツを滑りやすくする。

注意
ケガや破損の原因になるので、異物が付着しないようにする。

2 専用工具に装着



①ブーツの小径側から挿入する。
②体重をかけて一気に下まで押し下げる。

注意
ブーツがめくれたり、専用工具から外れないようにする。

3 ブーツの挿入



ドライブシャフトのアウトジョイントは分解せずに専用工具を挿入する。

注意
手や指を挟まないように注意する。

4 ブーツの取外し



アウトジョイントにかぶせてブーツをずらし、専用工具から取外す。

注意
外すときに手や異物を挟まないように注意する。

5 グリスの補充



ジョイント部に付属のグリスを全量注入する。

6 バンド取付け



①位置を決めて小径側からバンドを取付ける。
②バンドは車両前進時の回転方向と反対に折り返す。

7 ブーツ余り切り



ブーツの余り部分は切取る。ブーツの溝に沿ってカッター等で切除すれば作業終了。

注意
カッター使用時、刃の折れ等に注意して作業する。



蛇腹の谷の部分に補強を入れて耐久性を向上させている（実用新案 506087657 特許出願中）。

れを実現した商品として脚光を集めている。

同製品の特徴は、日本製の特殊ゴムを原材料に採用し、専用工具（コーン）で広げるとアウトジョイントの外径を上回るまで広げることが可能な伸張率500%という伸縮性を備えている点だ。これにより、作業時間は30分程度まで短縮できるので、車検時の付帯作業として行っても、利益が確保しやすくなると考えられる。

このタイプは、以前から複数のメーカーが製品化しているので、製品そのものに真新しい印象は受けない。

ただ、同製品は蛇腹の段数を純正品より増やして屈曲運動に強い構造としているうえ、蛇腹の谷の部分にも補強を入れて耐久性を向上させる（実用新案特許出願中）など、他の同類製品との差別化を図っている点を見逃してはならない。

2種類のブーツで軽自動車から普通車まで95%のクルマをカバー

また、同製品はアウトジョイント側から数えて2段目もしくは3段目の蛇腹部までブーツバンドが装着できる幅をそれぞれ設けており、軽自動車から普通車まで2タイプのブーツで95%の車種に対応する構造とし、在庫負担の軽減などの面にも配慮している（ただしアコード^{※1}、オデッセイ^{※2}、アウディA4/A6、FR車、四輪駆動車、ダイハツの一部ABS装着車など一部の車種には使用不可）。

なお、同製品はブーツ本体のほかにブーツバンド大小1本ずつとグリスも同梱しており、リーズナブルな点も魅力のひとつといえよう。

※1：アコードCB・CD・CE・CF系 / ※2：オデッセイRA系